



創立90周年記念式典

2019年(令和元年)
5月11日

創立90周年記念行事

(第1部) 記念式典

13:00~14:05

校歌斉唱 ~普通部・吹奏楽部とともに~
 聖歌「ごらんよ空の鳥」
 聖書朗読
 祈りと祝福 カトリック京都教区 司教 大塚 喜直 様
 式辞 日星高等学校 校長 水嶋 純 作
 祝辞 舞鶴市長 多々見 良 三 様
 「日星高校の今」生徒発表・チアリーディング部演技

(第2部) 公演「地球のステージ」

14:15~16:00

認定NPO法人地球のステージ代表理事 桑山 紀彦 氏
 高志もこころのクリニック 院長
 宮城県老教市南上中学校連合会 副校長 佐々木 清和 氏
 全員合唱「群青」



カトリック京都教区 パウロ 大塚 喜直 司教
「祈りと祝福」



式辞 水嶋純作 校長



祝辞 多々見良三舞鶴市長 代理 山口寛士副市長



全校合唱「群青」



日星高校の今 科・コースの紹介



地球のステージ



地球のステージ & 東日本大震災の語り部



世界の紛争・貧困の地で
 たくましく生きる子ども達の笑顔...
 をして、東北被災地の今の姿...
 歌と映像と語りの感動の
 ライブステージ!!



ごあいさつ



学校法人
聖ヨゼフ学園 日星高等学校
理事長 小林 圭児

フランス教皇が日本を訪れるこの年に、日星高等学校は、創立90周年を迎えることができました。

これまで、本校を支えてくださいました方々に、心より厚く御礼申し上げます。

1929年にパリ外国宣教会のアントワース・アノージュ神父によってカトリック西舞鶴教会の中に「舞鶴裁縫女学院」が創立されて以来、建学の精神は、(実学を基本とした女子教育、カトリックの精神に基づいた全人教育を行い社会に奉仕できる人材の養成)を基礎として、ブルトン司教より、「自尊」「自知」「自制」を校訓として戴き、カトリックの精神に基づいて社会に奉仕できる人材を育てることを目標としてきました。

1932年からは、聖母訪問会のシスター方が学校の運営を引き継がれ現在の教育の基礎を作り上げていただきました。

カトリック学校の使命は、イエス・キリストのメッセージの核心部分の「あなたは大切な人なのだ」「あなたの生には価値がある。あなたにいてほしい」ということをここで学ぶ園児・生徒・学生に伝えていく大切な使命を持っています。

しかし、今、日本は過ぎ去った90年間とは比べようもない社会に変化しています。少子高齢化は確実に進み、グローバル化による産業界の大都市集中は地方都市の疲弊を招き、今「地方再生」が国の重要な課題となっています。

一方、将来に目を向けると、日本の社会は今後10年以内に人工知能やIoT、ロボットの技術の実用化が進み、AI時代という超情報社会に移行して社会構造が大きく変わろうとしています。

この社会に、柔軟に対応できる能力「生きる力」「生き抜く力」が求められるようになり、勉学はもとより、部活動や、ボランティア活動などに積極的に取り組み、地域と人と繋がる力を育む必要があります。

また、世界は例えようのない変動と不安の時代を迎えています。このような時代であるからこそ、いのちの重さとすばらしさを大切に教育が必要です。

今最も大切にしなければならないのは、人は、自分も他の人も心から大切にしなければならないということです。

マタイの福音書の「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」をいつも心にとめておく必要があります。

創立90周年の節目にあたって、これまでのよき伝統を踏襲しつつ、これからの新しい時代にあった特色ある学校づくりに邁進し、さらなる発展に向け努めてまいりますので、今後とも皆様の一層の御指導・御支援を賜りますようお願い申し上げます。



学校法人
聖ヨゼフ学園 日星高等学校
学校長 水嶋 純作

創立記念式典 式辞

本校は、本年5月1日に創立90周年を迎えました。

折しも1日に元号が令和に変わり、日本中が新たな気分に満ちたこのよき日を節目として、次の時代に向けた新たな一歩を踏み出すことが出来ますことをうれしく思います。

カトリック京都司教区パウロ大塚司教様、舞鶴市副市長山口寛士様を始め多くのご来賓の皆様、市民の皆様にお越しいただきありがとうございます。舞鶴市唯一の私学として、京都府や舞鶴市を初め、多くの皆様の物心両面のご支援や様々な活動を行うチャンスをいただきましたことに感謝申し上げます。

本日、改めて日星の精神を確かめ、次の時代への決意を述べさせていただきます。

1929年(昭和4年)。昭和恐慌とよばれる不況の中、女性の職業的自立のために、フランスから宣教にこられたアノージュ神父が、西舞鶴教会の中に開設された裁縫女学校が本校の前身です。

戦後、聖母訪問会のシスター岡はじめが、奔走され、重砲兵連隊跡に学校を再開。教育によって平和を生み出すという大きなミッションを感じます。その後、聖母訪問会のシスター方によって本校教育の基礎が作られてきました。カトリックによる全人教育を目指した女子教育から、グローバルな国際社会に向けて男女共学にふみきられたのも時代の要請がありました。

今が、1930年代に似ているという指摘もあります。また、AIの進化やIoTによる「ソサエティ5.0」の時代は、夢の世界ではなく、人間が後回しになってしまう時代かもしれません。

そうした未来だからこそ、「建学の精神」によって人間の本質を取り戻していきたい。それは、聖書の「この最も小さき者にしてくれたことは私にしてくれたことである」を源としています。「お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。」とイエスは語ります。

それを現代にあてはめてみますと「学びたくても学べなく、知への渇きを潤す機会が得られなく、人とつながりたくてもつながれなく、心の悩みや思いを伝えたいけど伝えられないできた」そんな子どもたちとどう向き合うのかとイエスが問いかけています。

私たち教職員は、傷ついた子どもたちに共感し、困難を乗り越えようがんばっている姿に勇気づけられてきました。「一人ひとりを大切に」と丁寧な関わりを大切にしてきました。「先生、日星でよかった」と卒業していく生徒が私たちの財産です。これが、神から与えられた私たちの90年だったのです。

生徒の皆さん、「小さき者とあれ」の精神を受け継ぎ、世界と地域社会の両方に目を向け、「喜んで人のために」行動できる志をもってほしい。日星は、市や大学、企業や市民、世界とつながる豊かな学びの場です。皆さんが、それぞれの関心をもって地域や世界にでかけ、人や本物と出会う、異なる文化と出会ってくる。そうすることで、知への関心が広がり、社会や世界へのドアが開いていきます。足下の豊かさに気づけば故郷への愛着がわきます。地域の活動に高校生が参画することでまちを元気にします。

AIやネットの時代だからこそ、「人との関わり」「人の役に立つこと」を大切にし、地域社会を明るく照らす日星高校でありたいと考えています。

そのために、これまで以上に、地域の皆様のご理解と連携を賜りたいと存じます。

終わりに当たり、本日ご臨席の皆様方、並びに創立以来本校の充実・発展にご尽力いただきました皆様に改めて感謝を申し述べますとともに、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます、式辞といたします。

カトリック学校の使命



カトリック京都司教区
司教
パウロ大塚喜直

聖ヨゼフ学園日星高等学校創立90周年、まことにおめでとうございます。学生・教職員・理事会・同窓生の皆様にお祝いを申し上げます。そして、今日まで日星高校を守り導いて下さった父である神に、皆様と心を合わせて賛美と感謝をお捧げしたいと思います。

1885年(明治18年)のバリ外国宣教会のヴィリオン神父による舞鶴宮津行脚伝道に始まり、同会ルーヴ神父が舞鶴に仮教会が創設したのは1891年(明治24年)のことです。それから38年後の1929年(昭和4年)に着任したアノージュ神父は、中等教育、特に女子教育の必要性に着眼して舞鶴裁縫女学院を創設し、舞鶴の地でカトリック学校が誕生しました。その後、学園は聖母訪問会に受け継がれ、戦中戦後の混乱時代を経て、今や令和の時代に至るまで、舞鶴の地から、人を愛し、平和を愛する多くの卒業生を世に送り出してきました。幾多の困難と苦勞を重ねてきた学園の90年の歩みをふりかえるとき、バリ外国宣教会の創立者とその恩人、および歴代の聖母訪問会のシスター方や教職員、また協力された地元の多くの人々への敬意と感謝の念を抱かずにはられません。

カトリック教会が教育活動に積極的に携わる理由は、人間教育の原点に真の人間観・人生観・幸福感を基礎づける神の愛があると確信するからです。すべての人の父である神は、その限りない愛によって、この世とすべてのいのちを創造し、その完成を望み、いつくしみのまなざしで見守り導いてくださっています。カトリック学校の教育理念は、神に愛されていることを知り、その愛に応える人間を育てることにあります。人間は何かができるから、役に立つから価値があるのではなく、神から生かされ無条件に愛されている存在であることに無限の価値があることを生徒に伝えるのです。カトリック学校の使命は、生徒一人ひとり成長に手を差し伸べ、彼らの人生に奉仕することにあります。

2019年来日した教皇フランシスコは青年たちに向かって言われました。成長するため、自分らしさ、持ち味、そして内面の美しさを知るためには、鏡を見てもしかたありません。魂の自撮りカメラはありません。幸せになるには、ほかの人に手伝ってもらい必要があります。自分の中にこもらずに、困窮する人のもとへと出向くことです。何のために生きているかと問うよりも、だれのために生きているのかを問うことが大切です。そして、人間が互いに支え合い、お互いの弱さを受入れ、ゆるし合って生きることの大切さを、社会の中で、世界の中で、特に愛に飢え渴いている隣人と分かち合う人間が、今こそ必要です。神はわたしたちに、すべてのいのちをよりいっそう守り世話する、社会の預言的パン種となるようにと語りかけてくださいました。

これからも、舞鶴の地のカトリック学校として、日星高校が建学の精神の継承と福音宣教という尊い使命を熱心に果たしていくことができるよう、父である神がさらなる皆様の歩みも見守り、力強く導いてくださいますように、聖ヨゼフの取り次ぎによって祈ります。

祝 辞



舞鶴市長
多々見良三

学校法人 聖ヨゼフ学園 日星高等学校が、創立90周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

顧みますと、日星高等学校におかれましては、昭和4年に「舞鶴裁縫女学院」として創立され、以来、学制改革による学校再編や衛生看護科の新設、さらには男女共学化など、幾多の変遷を経て、今日に見る確固たる基盤を築かれ、地域の教育環境の充実に大いに貢献されているところであります。

近年では、福祉施設や保育所での活動、地域ボランティアなど、地域貢献活動に積極的に参画されるほか、ウズベキスタン共和国との交流活動等を行う中で、「自尊」「自知」「自制」を教育目標に、時代の要請に応えた多くの優秀な人材を輩出し、地域社会の発展にも大きく貢献され、このたび創立90周年という記念すべき節目の年を迎えられました。

心からのお慶びを申し上げますとともに、ここに至りますまでの水嶋校長先生をはじめ、歴代校長先生、並びに学校法人の皆様、教職員等関係者の皆様方の長年のご尽力とご労苦に深甚なる敬意を表する次第であります。

舞鶴市では、2019年4月から、市政運営の最上位計画に位置づける第7次舞鶴市総合計画がスタートいたしました。第7次舞鶴市総合計画の狙いは、次代を担う若者や子供たちに、このまちに住み続けたい、一旦外に出てもふるさと舞鶴に戻って夢を実現したいと思ってもらえるまちにしよう、そして、まちの将来のため、産官学金労言士などとの多様な連携により、新たな発想も柔軟に取り入れながら、オール舞鶴でまちづくりを進めていこうとするものであります。

中でも、次代を担う人材教育、殊に教育については、重要な課題と位置付けているところであり、長年にわたり特色ある教育環境づくりを実践されてきた日星高等学校には大変大きな期待を寄せているところであります。生徒の皆様には将来、社会において、またこの地域において、「未来を担う大切なひと」として大きく活躍される人材となっていただくことをご期待いたしております。

結びにあたり、日星高等学校が90周年という大きな節目を契機として、今日まで築いてこられた輝かしい歴史と伝統に立って更なる発展を遂げられますことと、皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉いたします。

日星高等学校創立90周年に寄せる言葉



日星同窓会
会長 安積初江

この度、日星高等学校創立90周年の記念誌に寄稿させて頂けることを、とても嬉しく思います。

何についてお話ししようかと考えましたが、やはり、卒業生の一人として、在学当時の思い出をお話ししようと思います。

私が日星の中学部に入ったのは、1968年です。何と半世紀も前のことです。当時は、1学年1クラスの少数精鋭の中学部を兼ね備えた女子校でした。その時代としては、最先端のランゲージラボラトリー教室があり、個別に仕切られた席で、各々ヘッドホンを着けて英語のリスニングと発音練習をします。そして、それを聞いている先生がヘッドホンを通して個別に指導して下さるのです。この学習方法で、私の英語力は培われたと言っても過言ではありません。又、当時からスクールバスが完備されており、登下校は、安心且つ快適でした。あの頃は、小浜まで運行されていたので、一度クラスメイト数人で運転手さんをお願いして下校時、小浜までドライブして、帰りに降ろしてもらったことがあります。

小学校とは異なり、中学になると教科ごとに異なった先生方に教わります。英語担当のM先生は、中学1年時の担任でもありました。彼女は、流石に英語教師、クラスの生徒たちをファーストネームで呼ばれました。例えば私であれば「初江」という具合に。それは、私にとって、すごく新鮮な驚きでした。それまでの人生で、他の人から「安積さん」としか呼ばれて来なかったのですから。又、M先生には、入学後すぐに忘れられない指導を受けました。ある日、スクールバスで登校し、降車時に運転手さんに「ありがとうございます。」と言ったのですが、運転手さんが無言だったのです。そこで、私がその不満をM先生に話したところ、次のような言葉が返って来ました。「初江、自分の感謝の気持ちは、相手に伝えるだけで充分なのよ。それに対して相手に見返りを求める必要はないわ。」と。正に目から鱗でした。何にでも見返りを求める私って、何て小さな人間なのだろう。と、気付かせてもらいました。そのアドバイスのお蔭で、私は人として少し成長できたと思っています。

他にも、非常に厳しい指導をされる数学担当のI先生。授業中少しでもよそ見をしようものなら、すかさずチョークが飛んで来ます。今の時代、これも体罰になるのでしょうか。

古典担当のN先生も厳しい方でした。ある日、授業の進み具合が思ったより早く、みんなが予習していない所まで進み、音読するように指名された生徒たちが、皆詰まってしまうくらい読めなかったのです。するとN先生が「こんなやる気のない人たちには、教えられない。」と何と職員室へ帰ってしまわれたのです。今の生徒さんたちなら、「やったー!自由時間だ。」と喜ぶかも知れませんが、私たちがどう対応したかと言うと、学級委員をしていた私が代表で職員室に謝りに行き、又、授業を続けて頂きました。

この様にして、沢山の先生方に学問だけでなく、色々な分野の知識や、人としての在り方等本当に多くの事を教えて頂きました。今の私があるのも、日星で過ごした6年間があるからだ、心から感謝しています。

これから先も、日星高等学校が、アットホームな雰囲気の中で、「地域に貢献できる学校」を目指し、更に発展されますよう、願って止みません。



日星教育振興協力会
会長 川上精一

創立90周年を記念して

聖ヨゼフ学園 日星高等学校創立90年、誠におめでとうございます。日星教育振興協会を代表して心よりお祝い申し上げます。

90周年と言いましても、いろいろな出来事があったことと思われま。1929年(昭和4年)に始まる大恐慌、資本主義世界で銀行倒産、失業の連鎖反応から急激な不況などにより、世界恐慌となり日本経済は大打撃をうけていた時代、アノー・ジュ神父氏が「舞鶴裁縫女学院」として創立されたと聞いています。

90年間の私たちの取り巻く環境が大きく変わりました。その間、巣立った卒業生は幅広く社会を支え各方面に活躍されています。その一人一人の学園への情熱が新たな歴史を作ってくれていると思います。

学園の指導の一つとして「モンテッソーリ教育」の言葉を良く聞きます。幼少の時から「ひとりで生きていく力を身につける」事が基本的な目標であると言われていて、「日常生活の練習」「感覚教育」「言語教育」「数教育」の4つの分野に分かれ、それらが、幼児から成長していく過程で全てが必要とされるものです。

また、日常生活では「歩く」ことから始まり、一つ一つを「体で覚える」などして育つとともに、感覚教育として五感を洗練させることによって、知的発達に結びつけていきます。五感とは「視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚」3感「温感、冷感、痛感」心構えや雰囲気など感覚「バランス感覚、金銭感覚」などが考えられます。これらは人生の中で大切なものであり、誰もがスランプになったとき、原点に戻り何が足りないのか考える知恵となっています。その都度、何度も立つスタートラインまでのプロセスに生かしてくれるものです。

1964年の「東京オリンピック」には、本校の生徒が聖火ランナーを務めました。2021年の「東京オリンピック」もきっと聖火ランナーが誕生すると期待しています。舞鶴市が「ホストタウンの町」としてウズベキスタン共和国(レスリング競技、柔道競技)を受入れます。学園あげての協力体制になるよう期待されています。

そして、クラブ活動の活躍です。「女子バスケットボール」「卓球競技」等も過去にも全国的に好成績をあげています。現在は、硬式野球部、バスケットボール部、バドミントン部、なぎなた部、バレーボール部、チアリーディング部、レスリング部、体操部、吹奏楽部等多くのクラブが、情熱、夢、希望を持ち目標に向かってチャレンジしています。ボランティア活動に於いても積極的に参加し、地域貢献に寄与しています。学生の皆さんが、これからもオールラウンド・プレイヤーを目指し学業、クラブ活動にワンステップ・ツーステップ・スリーステップアップと一歩、一歩、研鑽されるようお願いいたします。期待しています。

最後に、この輝かしい歴史と誇る日星高等学校が、100周年、110周年に向けて今後の更なる飛躍を目指すために新たなスタートとなることを確信するとともに、これまでご尽力頂いた皆様に深く感謝申し上げます。お祝いのご挨拶といたします。

創立90周年に寄せて



育友会
会長 道林 勇一

令和時代の幕開けに日星高等学校が、記念すべき創立90周年を迎えられたことを、心からお祝い申し上げます。卒業生や在校生の皆様を始め、先生方関係者様の方々と共に喜び合いたいと思います。

1929年(昭和4年)舞鶴裁縫女学院として創立し1946年(昭和21年)よりこの地に移り、さらに1948年(昭和23年)日星高等学校となり、その歩みの過程には色々な課題を抱え多くのご苦労やご努力があったと察します。

今では、90年という長い歴史の中で、日星高等学校は、色々な時代の要請に応じながら、個性と創造性に溢れ、心身ともに健やかな生徒の育成に取り組まれてきたことでしょう。それによって、輝かしい伝統と校風を営々と築き上げるに至っています。そして、多くの卒業生を社会に輩出し経済の発展に貢献されていることを心強く思います。

これも一重に教育に献身的に携わった歴代校長先生を始め教職員先生方の熱意ある教育姿勢のお蔭と生徒の皆様の日々たゆまぬ努力の賜物であると、あらためて育友会を代表して感謝申し上げます次第であります。

さて、これからの時代は、さらなる国際化・ICT化が一段と発展し、同時に少子高齢化がさらに進んで行くことと思えます。

このような時代の急激な変化の中で、教育の様相や学校自身の役割も大きく変わっていくものと思われます。

また、いじめや学級崩壊、青少年の犯罪凶悪化、低年齢化など青少年を取り巻く憂慮すべき問題も発生しており社会に様々な歪みをもたらしています。正義感、倫理観や他人への思いやりの心など心豊かな人間性を育てるための【心の教育】の充実が極めて大切な課題ではないかと考えています。これからは、これまで築いてこられた90年の歴史に日星高等学校のさらなる飛躍を目指し本校の使命としてチャレンジ精神豊かで創造性溢れる人材育成を実践していく必要があるのではないのでしょうか。

何時の世も子供は親の背中を見て育っていきます。今一度、私たち大人が、90年の節目を契機に、自らの発言や行動を律し、新しい令和の時代に向けて生きるべき姿を子供と一緒に創造していきたいものです。そして、私達育友会は、この90年の歴史に重みを感じつつ、さらに育友会活動の内容充実に努め心新たに前進して参りたいと決意しております。

最後に記念誌発行に当たり原稿や資料を頂きました教職員関係者の皆様、歴代育友会の皆様方や卒業生の皆様方、そして絶大なるご支援を頂きました皆様方に、心より深く感謝申し上げます。

日星高等学校創立90周年この良き伝統と校風を祝い、益々のご発展を祈願し挨拶の言葉といたします。



聖母訪問会
総長 米田ミチル

日星高等学校創立90周年に寄せて

日星高等学校90周年おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

聖母訪問会と日星高等学校の関わりは、1932年に舞鶴聖母女学院(その前身は1929年にパリ外国宣教会のアノージュ師によって創設された舞鶴裁縫女学院)を、教会からの依頼で引き継いだことから始まり、以後60年余りその運営に携わっていました。その名の通り、当初は女性の技術の習得をめざし、その自立を目的に設立された学びの場でした。都会ではなく地方におけるカトリック女子教育!!これは、アノージュ師と同じ宣教会に属していた本会の創立者ブルトン司教の意向でした。

日星高等学校が舞鶴市における唯一の私学として、1967年の看護科の設置(1995年に衛生看護専攻科を開設)や、1996年にはコース制の導入と男女共学化など、時代や地域の必要に応える教育に先駆的に取り組みつつ、90年の歴史を刻んでこられたことを、あらためて思い巡らしています。

そして、その流れのなかで現在、「Glocalな視野を持つ生徒の育成」に真摯に取り組み、「地域に貢献できる学校」をめざしておられることに、心から敬意を表します。考えられないほどの情報に溢れる現代社会だからこそ、Glocal…“地球規模で考え、足元から行動する”ことの大切さを痛感するところです。現在、地球上には約77億人の人々が、自然界の様々なものに支えられて生きています。未来からの預かり物であるこの地球に生きている者として、ほんとうに今こそ、自分の今日の生活の選びに地球規模的配慮がいて感じています。一人ひとりの、そして一つ一つのいのちを軽んじることのない生き方は、カトリック教育の根幹を流れている“いのちの尊厳と愛”に繋がっています。情報が溢れているのに孤独な人、苦しんでいる人々に具体的な援けが届かない現実、残念ながら私たちが毎日のように目にし、耳にすることです。ニュースが一瞬のうちに世界を駆け巡る現代にあって、柔らかな感性で思春期を生き、未来を築いていく任を負う若者は、多くの情報の中から、人としての視点に立ってSee⇒Judge⇒Actを身につけることの大切さが問われていると実感します。一人一人の能力を見だし伸ばすと共に、そこにこそカトリック校としての大きな役割もあると確信します。

日星高等学校が、90周年という新たな出発の時を機に、これからは「自尊・自知・自制」の校訓のもと、Glocalな視野を持ちいのちを大切に生徒の育成に前進してまいりますように!! ミッションスクールとしてその使命(mission)に生き、高校生たちの真の必要に応える学びの場として、ますます充実し、発展されますように!! 心からお祈りしています。

創立90周年のお祝いを心からお喜び申し上げます。

国道から見える五老ヶ岳が、今日も真下に日星高校を抱きかかえて下さっている神様の姿のように感じられます。振り返れば1978年から校長職を勤めさせて頂き、毎月曜日の朝礼で聖書の一節を読み短い話をしていた事を思い出しています。実はこの恒例の朝礼は、私が秋田県の聖霊中学校に在籍していた頃、ドイツ人のシスターが校長としてなさっていたことでした。その頃は信仰をもっていない私で「何と変化のない、つまらない朝礼」と思っていました。実はその中に響き続けていたものが、公立の高等学校に転校してから「あれは何だったのか……」私の心に離れない「何か」を残していたのです。

「教育」とは、そういうものだと思います。

1929年、舞鶴三の丸教会の主任司祭であられたフランス人、パリ外国宣教会のA・アノージュ神父様が日星高校の前身、裁縫学校を設立された土地を1971年に訪れ、今の学校の花壇から草花の種を手に取り、ローマに持ち帰られたという記録(「秘められた神の思い」の記)を知った折にも教育とは記録に残らない「種」であるという思いを強くしました。

歴代の先生方のご苦労は、何冊かの書籍をもってしても足りないでしょう。確かに、その時、その時に思いを巡らすことは、山程ありますが、それは言葉で現せず、心の中に種として播かれていることなので、私は心にポッポッと咲いて見せてくれるものを祈りの中で90周年の厚み、深さ、広がり、そして現在の輝きを感謝しています。

日星高等学校の教育に携わって下さいました諸先生方、寄宿舎での教育に携わって下さいました方々、事務関係、通学バス、クラブ活動、そして終りになりましたが、舞鶴、福知山、高浜、小浜など日星の教育にご理解をいただき、ご尽力くださいました方々、ご父母、卒業生の皆様に、今日、心から改めて感謝を申し上げ、お祈りいたします。

神様の祝福を祈りつ



聖母訪問会
シスター 梅本玲子



創立90周年に寄せて

室 宏子（元校長）

「月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり」ふと奥の細道の冒頭が思い浮かびます。

創立90周年、誠におめでとうございます。90年という長い旅路を経て、今の日星高校があることを思う時、月日と共に関わった多くの旅人がいたことに感慨深いものがあります。それぞれの「時」にその時代の困難さがあり、今日まで順風満帆ではなかったでありましょう。シスターズ、教職員、そして卒業生、保護者の方々の力の結集で今日の日星があることに喜びを感じつつ、90周年のお祝いを申し上げたく思います。

今年も庭先に芙蓉が咲きました。残暑の中、大輪の花はゆらゆらと天に向け次々と咲き続けました。この花が咲くと、理科の先輩であった福田利重先生を思い出します。先生からある時、この芙蓉の若木をいただき今では大きく成長し毎年花を咲かせてくれています。先生は日星の福祉教育の基礎を築かれ、建学の精神のもと福祉授業をカリキュラムに組み入れ、一方、ボランティア、点字、手話の各クラブ活動を支え続けて下さいました。当時手話クラブの顧問としてクラブ生と共に勉強した事を懐かしく思い出します。金子みすゞの詩に出会ったのはその頃の事でした。

大 漁

朝焼け小やけだ 大漁だ 大ばいわしの 大漁だ。
はまは祭りの ようだけど 海のなかでは
何万の いわしのとむらい するだろう。

私は驚きと同時に強く心に打たれました。更に「わたしと小鳥とすずと」では「みんなちがって、みんないい。」と結んでいます。小さなもの、弱いものへの眼差しに心引かれ感動しました。それは詩の手話表現をクラブ生と共に学びながら得た、貴重な体験でした。地味な活動でしたが私にとって、勿論クラブ生にとっても、心の充実した一つの時代であったように思います。「福祉の心」の教育の必要性は今も昔も変わりません。更に深められていくことを改めて望みたく思います。

さて、今夏の異常な暑さ、そして打ち続く台風の惨禍、しかも復旧中の被害等、今や「災害は忘れた頃に…」は通用なくなっています。昨今の異常気象が地球温暖化に起因することを今更ながら思い知らされます。

地球温暖化が、はじめたのは1850年頃の産業革命からと言われています。COP3(気候変動枠組条約第3回締約国会議)で京都議定書が採択されたのは1997年のこと、その時先進国の温室効果ガスの排出量を1990年比で5%減らすことを目標にしました。当時、校舎の2階の講堂に向かう廊下にポスター等をパネル展示したことを思い出します。その頃の教科書にはCO2(二酸化炭素)やCH4(メタン)など温室効果ガスについて欄外に極わずか載せているような扱いでした。今や全世界の温室効果ガス排出量は記録的な水準に達しています。先の気候行動サミットで77ヶ国が2050年に排出量を実質0にする約束をしましたが日本は加わっていません。経済優先、快適な生活の追求等々、今や後戻りできないところまできているような気がします。スウェーデンの16歳の少女の国連での怒りの訴えは衝撃的でした。私たちにできることは何か、小さなことから始めるはずで。

借り物である地球、この地球環境に視野を広げ、まず生活の知恵を持ちたいものです。効率や便利さから少し距離を置いて日常を見つめ直したいとも思います。世界の若ものは動き出しています。今、この「時」の要請が教育の場にも求められているのではないのでしょうか。

その時代、時代の困難さを克服しながら今日を迎えられました。90周年という十字路口に立って前途遠くであります。新たな一歩を踏み出されることを祈念しつつ、創立90周年に寄せる言葉とさせていただきます。



日星高等学校創立90周年に寄せる言葉

古川 八郎（前理事長）

この度、日星高校におかれましては、創立90周年を迎えたとのこと、心よりお祝い申し上げます。さらに10年後には花も実も豊かな100周年を迎えられますよう、いっそうのこと精進して、勇往邁進!(Going full speed ahead!)して下さいますように願っております。

思い起こせば、聖ヨゼフ学園の理事長の指名を受け、赴任したのが1993年4月1日でした。それから2017年6月末に退任するまでの約四半世紀の間、日星高校で有意義な時間を過ごさせて頂きました。この間、思い出深いことは多くありますが、特に思い出深いものを3つ挙げさせていただいて、90周年の祝いに花を添えたいと思います。

まずはカトリックの繋がりを活かして驚くほど上手くいった思い出です。赴任してしばらくの1996年、国際コースを立ち上げようという話になりましたが、そうすると、海外留学先が必要となります。ちょうどその時、西舞鶴教会の司祭をされていた方が、レズンブール修道会所属でバンクーバー出身の方でした。相談したところ、それならカナダの地元の高校ではどうかという話になり、セントパトリック高校との姉妹校提携の話が進み、交換留学の仕組みの礎が出来ました。

下見や生徒の付き添いを含め、私もカナダに数度渡りましたが、美しい景色等、色々と思い出に残ることがあります。

次に思い出深いのは、2002年に衛生看護専攻科を看護科5年課程に変更する申請を行った時のことです。文部科学省の担当官との交渉や新校舎の建設のための資金調達など、山ほどの課題と手続きがありました。文部科学省との交渉には京都市内の衆議院議員の秘書に同行してもらい、スムーズに事は展開していきましました。地方なのに生徒が集まるのか等、質問攻めにありましたが、却下されることはなく、その後の経過は皆さんもご存じの通りです。

私は、臨床心理学やカウンセリングの授業を担当し、

理事長とはまた違う関わり方を生徒達と持つことが出来ました。1994年に心臓を患い(心筋梗塞)、定期的に検査を受けてきましたが、入院先の病院で卒業生に会うことがだんだんと増えていき、毎度心強く、嬉しく思ったものです。

3つめの思い出は、野球部の躍進と地域の盛り上がりです。日星高校はもともと女子高でした。1997年に共学になり、2000年に野球部が結成されたものの、はじめのうちは男子学生が少なく、野球をするのがやっとの状態でした。流れが変わったのは社会の教科を担当している山中始之先生が2006年の野球部の顧問になった時でした。山中先生は平安高校出身で、夏の甲子園にもレギュラーメンバーの一人として出場したことがありでした(先生が甲子園で対戦した学校が、私が戦時中疎開先で一時在籍していた丸亀高校だったという事にも、不思議なご縁を感じたものです)。次第に試合に勝つことが出来るようになり、2016年には京都府大会ベスト8まで勝ち上がるようになりました。それに伴って、舞鶴市民の方々の応援が増え、吹奏楽部が応援に来てくれるようになり、チアリーディング部が結成され…というプロセスに立ち会えたことは、野球好きの自分にとって、非常に胸躍る経験でした。

思い返せば、「多くの人々との繋がり」によって、ことを上手く運ぶことが出来た24年間でした。理事長という橋渡しの役を任せられ、全うして来たつもりですが、至らぬ所は後続の先生方が引き継いでくれると信じています。得がたい経験をさせていただいた御礼も添えまして、寄せる言葉とさせていただきます。



創立90周年によせて ～カトリック学校としての日星～

北村 司郎（前学校長）

私が初めて日星に赴任した時、ちょうど創立70周年のお祝いをした年でした。あれからもう20年の歳月が流れたかと思うと時の流れの速さを感じるとともに、日星高校が京都北部という私立学校としては恵まれた環境とは言えない中で、地域の信頼を得て、存続し続けていることは素晴らしいことだと思います。

私が最初に日星新聞に書いたのは、確かカトリック学校としての日星高校だったと記憶しています。日星高校を退職後、東京に戻り2009年から、「カトリック学校に奉職する教職員のための養成塾」の事務局を担当させていただき、現在11期生が研修中であり、これまでに400名以上の先生方が卒業していています。それは日星高校と同じように学校の中から修道者がいなくなり、カトリック学校としてやっていけるかという危機感から各学校が先生方を送ってくるのだと思います。

カトリック学校の根源は「人ありき」が中心になければならないと考えます。今の指導要領をみても「経済ありき」が中心であり、この社会の発展に寄与する人材を輩出するのが教育の目的になっています。人材という言葉、おかしいと思いませんか？人間は何かの材料ではありません。私たちの目の前にいる子供たちひとりひとりが神様に愛され、ここに存在しています。その存在をそのまま肯定するのが、カトリック学校ではないかと考えます。もちろん学校ですから、それなりの知識の獲得は必要でしょう。私立学校とはいえ、日本の法律の中で存在しているわけですからそれに縛られるのは当然です。教科書も指導要領に基づいて作られていますから、その知識の前提には「経済ありき」であり、もしかすると「国家ありき」が顔を出すこともあるかもしれません。だから私たちは気をつける必要を感じています。道徳という教科の中ではいろいろな徳目を教えることになっているそうですが、聖

書の中の「放蕩息子」や「時間に関係なく同じ給料を支払う主人のたとえ話」は教えることができない、と伺いました。これらの話は現在の社会ではありえない話だからです。しかし、あってもよい話ではないでしょうか。本当の豊かさは経済だけではなく、人間の心の中にこそあるのですから。

ですから「人ありき」を中心に置いたら教科の面でも相違してきます。それができるのがカトリック学校ではないかと思えます。そして、目の前にいる子供たちにどんな子供たちであっても「あなたがここにいるのはいいこと」「そのままの自分でいいよ」といえるのがカトリック学校ではないかと思えます。そのうえで初めて本当の知識が必要になってきます。

今後、100周年に向かって歩み続けると思いますが、教職員の皆様が力を合わせて「人ありき」の学校を継続して欲しいと思います。

NISSEI HIGH SCHOOL

90th Anniversary

沿革

- 第1期
1929 — 1978.3
- 第2期
1978.4 — 1996.3
- 第3期
1996.4 — 2008.3
- 第4期
2008.4 — 2020.10

第Ⅰ期

- 1928** (昭和3年)
当時、舞鶴市三の丸教会の主任司祭マルモニエ師は、教会の中に学校を建てることを計画し、信者達と共に準備をすすめたがその成立を見ないうちに香港へ転任。
- 1929** (昭和4年)
4月1日 アノージュ師 三の丸教会主任司祭として赴任、協会内に舞鶴裁縫女学院を設立。アノージュ師は赴任わずか1年で東京大神学校の教授として舞鶴を離れる。
- 1930** (昭和5年)
マルモニエ師が香港から再び舞鶴へ。手狭になった学院のために南田辺に校地を購入し、校舎の新築に着手。その後マルモニエ師は再び香港へ赴任。
- 1931** (昭和6年)
第1回 同窓会
- 1932** (昭和7年)
9月1日 ジョセン神父 三の丸教会に赴任。舞鶴女学院成長と共にその経営を移管する方がよいと考え、教会より訪問童貞会(聖母訪問会)に委託し、舞鶴市南田辺字大内に校舎を完成し移転する。同時に「聖母園」を併設。
- 1940** (昭和15年)
舞鶴裁縫女学院は、舞鶴暁星実科女学院として設立認可を受ける。シスタージョセフィン(岡はじめ)が初代校長。
- 1941** (昭和16年)
1月15日 舞鶴市倉谷に新校舎を増築、落成式を行う。
- 1942** (昭和17年)
経営組織を財団法人とする。シスターヴェロニカ(鈴木ふ志)理事長就任
- 1943** (昭和18年)
2月25日 太平洋戦争のため、海軍より校地を没(買)収され閉校となる。これより1946(昭和21)年の春まで学校は空白の期間が続く。
- 1945** (昭和20年)
8月15日 終戦と同時に岡校長は学校を再興するため奔走する。
- 1946** (昭和21年)
3月30日 舞鶴市上安久にある舞鶴重砲連隊中部71部隊跡を借り入れし、日星高等女学校を設立。宮津暁星高等女学校を運営していた財団法人聖ヨゼフ学園に合流する。また、舞

鶴聖母女学院を復校する。
入学式 129名
聖体行列に全校生徒参加

- 1947** (昭和22年)
3月20日 舞鶴聖母女学院卒業式 31名
4月10日 日星高等女学校は学制改革により日星中学校となる。
6月16日 聖母園を幼稚園令による聖母幼稚園に改める。
- 1948** (昭和23年)
3月1日 舞鶴聖母女学院廃校
7月14日 カナダより救世主会司祭 フーラー神父様・ジェームス神父様来日、日星・暁星のよき協力者となられる。
12月21日 学校再編成により日星高等学校設立認可される(定員6学級240人)
- 1949** (昭和24年)
4月30日 校地校舎全部を大蔵省より払い下げられる。
7月30日 初代校長シスタージョセフィン(岡はじめ)退職。二代目校長シスターコンセプタ(久次フィノ)就任。
9月10日 オランダのシスター5名が本校に在住
11月18日 第1回生徒総会開催
- 1950** (昭和25年)
3月14日 ローマ使節(フルステンベルグ・マキシミアム)来校
アメリカ博見学遠足
- 1951** (昭和26年)
3月16日 財団法人聖ヨゼフ学園を学校法人聖ヨゼフ学園に改める
11月1日 元要塞司令部(現舞鶴税務署)を校地として買収。
- 1952** (昭和30年)
高等学校1年3学級編成(普通科A、家庭科B、家庭科C)
日星教育後援会解消 日星育友会発会
- 1954** (昭和29年)
4月1日 校舎三教室を増改築
7月10日 ルルド完成 祝別式
聖母訪問会創立者ブルトン司教逝去
- 1957** (昭和32年)
2月1日 体育館新設 運動クラブ活動が活発になる。
6月30日 講堂改築完成。

- 1958** (昭和33年)
レデンプトール会来日10周年記念祝賀会
- 1961** (昭和36年)
2月 本館(鉄筋2階建一部3階)新築工事着工
11月8日 同上落成式
11月18日 寄宿舍一棟新築
- 1962** (昭和37年)
創立者アノージュ神父様34年ぶりに来校
5月10日 本校舎前グラウンド整備
12月23日 寄宿舍食堂改修築
- 1963** (昭和38年)
7月5日 テニスコート三面第二グラウンドに整備
10月10日 旧寄宿舍内部全面改造
- 1964** (昭和39年)
5月31日 寄宿舍一棟新築
ヴァチカン公使視察
- 1965** (昭和40年)
ソフト部府下大会優勝
校内音楽コンクールを始める。NHKコンクール府下大会出場
- 1966** (昭和41年)
卓球部府下大会優勝
旧講堂解体、新築着工
新鉄筋講堂校舎落成式
- 1967** (昭和42年)
衛生看護科(定員40名)設置
スクールバス3台購入
卓球部全国大会出場(第5位)
- 1968** (昭和43年)
シスターヴェロニカ(鈴木ふ志)理事長退任。シスターロマナ(関ワカ子)理事長就任
- 1969** (昭和44年)
衛生看護科第1回戴帽式
第4回日星バザー開催
- 1970** (昭和45年)
衛生看護科第1回卒業式挙行
大型バス1台購入
シスターコンセプタ(久次フィノ)日星中学・高校長退任
シスターナルシス(平田サチエ)日星中学校長に就任
シスターコレッタ(渡辺嘉子)日星高等学校校長に就任
全校生万博見学

- 1971** (昭和46年)
日星中学校第24回・日星高等学校普通科第21回・衛生看護科第2回卒業式
アメリカより留学生パティさん受け入れ。文化祭で校内を初めて一般公開
創立者アノージュ神父様来日。再来校される
- 1972** (昭和47年)
兔和野キャンプ始まる
- 1973** (昭和48年)
シスターコレッタ(渡辺嘉子)日星高等学校校長退任
シスターナルシス(平田サチエ)日星高等学校校長に就任
昭和48年度より日星中学校生徒募集停止
- 1974** (昭和49年)
第29回国民体育大会。卓球部準優勝
- 1975** (昭和50年)
日星中学校廃校

第Ⅱ期

- 1978** (昭和53年)
シスターナルシス(平田サチエ)校長退任。シスターイルダ(梅本玲子)校長に就任。
校門東側土地450坪を売却。
5月17日 スクールバス大型2台購入。
女子寮マリア寮建築起工式。
校門西800坪売却。
11月22日 マリア寮(120名収容)落成式。
教職員共同体づくり。
学校敷地内にバラバラに建っていた旧陸軍兵舎を寮として使用してきたが鉄筋コンクリート3階建ての寮が完成した。共同生活を通して高校生としての基本的な生活習慣を自ら身につけ、カトリック校の寮として思いやりと心遣いのできる人間の育成を目指した。
- 1979** (昭和54年)
シスターロマナ(関ワカ子)理事長退任。シスターコレッタ(渡辺嘉子)理事長就任。
進学コース5名、創立50周年。
- 1980** (昭和55年)
全国社会福祉協力指定校となる。
1年進学コースとりやめ、英語学力別クラス(2年生より attack course となる)
国際教育推進のため外国人講師(YBU講師)を招く。
教員13名フィリピン訪問。

入学 志願者数	昭和年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
志願者数		16名	4名	7名	12名	12名	10名	17名	32名	17名	14名	34名	20名	19名	11名

1981 (昭和56年)

新修道院落成。
英語コース発足。
57改訂の教育課程決定。
各学年の目標を決定した。
ソロプチミスト、ボランティア賞受賞。

1982 (昭和57年)

新課程(57改訂)発足。
福祉教育として福祉の授業をカリキュラムに導入し実施した。(点字・手話・畑作業・礼儀作法等)



福祉・手話の授業



福祉・車椅子体験

昭和57年より「福祉教育」が正規のカリキュラムに組み込まれた。1年で2時間、2・3年で週に1時間の3年間で120時間実施。点字、手話、奉仕作業、礼法などを学び外部から障害のある方やボランティア体験者を招いての講演会など社会の中の弱い立場の人々を大切にしようという本校の教育方針に沿ったものであった。また、国内外の被災地等への義援活動が認められ、府教育委員会から福祉協力校の指定を1980年に受けた。

国際教育としてフィリピンとの交流が始まる。(留学生2名受け入れる。夏期研修に13名参加) オーストラリア交換留学。
1年生合宿開始。



フィリピンとの交流

1983 (昭和58年)

国際教育・福祉教育の充実を図る。
アメリカより1年間の留学生(カーリン)来校。
ウォーカーソンによる平和行動。



ウォーカーソンによる募金活動始まる。この年は平和行進40人参加。スポンサー600人

1984 (昭和59年)

職員研修で教会と聖母訪問会の目指す路線に従うことの確認。
3年生平和学習として、広島に旅行。
ボランティアグループが社団法人日本善行会より、青少年善行表彰される。

1985 (昭和60年)

ボランティアクラブが舞鶴市の青少年善行表彰に続いて、厚生大臣賞を受賞する。
体育館建設、校舎入り口にスロープ設置。



新体育館落成

ボランティアクラブ・点字クラブ・手話クラブが「ソロプチミスト舞鶴日星高校Sクラブ」として発足。

フィリピン交換留学生の招待一時停止。

初のベトナム難民生徒受け入れ。

57改訂の見直し(生徒のアンケートより学ぶ。教会・聖母訪問会のメッセージに沿った教育を考える。)

シスターコレッタ(渡辺嘉子)理事長退任。
シスターロマナ(関ワカ子)理事長就任。

1986 (昭和61年)

普通科の充実を図る。基礎学力向上のために少人数制授業を始める。

1年生の数学と英語の授業で4分割。また、2年生の英語を2分割した。さらに選択科目を増やし自分の興味関心に合わせて選択できるようにした。

タイプ講座をワープロ講座に改めた。



ワープロ購入、授業に取り入れる

3年生で自分の進路希望に合わせた進路選択授業の導入を決定。
体験入学を始める。

1987 (昭和62年)

入学試験に併願制を導入。

韓国学習旅行開始。

普通科の更なる充実のために各教科で検討し次のことが決定した。

- 数学3年生進路希望別講座の設置(3クラスを4講座に) 理科の2分割授業、基礎社会(地理)4分割授業、3年生で2単位の進路選択授業の開始。

1988 (昭和63年)

英語コース募集停止(2・3年は在籍)併願制実施。

宗教・国際・福祉の本校教育の3本柱を全体のものにするために校務分掌を改定した。

ベトナム生1名受け入れ。

社会でも①授業開始。

数学3年生進路希望別講座開始。

京都国体にプラカード保持、聖火ランナーとして参加。

舞鶴ユネスコ協会より教育賞受賞。

1989 (平成元年)

同窓会総会、4回目の名簿完成。

卒業生吉田ユリノさんの講演会開催。

創立60周年記念事業として、テレサハウス竣工。



テレサハウス:福祉教育実践の場

水6授業(ゆとりの時間)実施。

ベトナム生1名受け入れ。

理科2年2分割授業開始。

1990 (平成2年)

全学年英語コースなしとなる。

日星高校の将来を考える検討委員会が発足し、それが「明日を考える会」へ引き継がれる。

男女共学と特色ある教育、対中学校対策とPRのために、綾部で学校紹介展開始。

制服変更、学力アップ対策として、1年生のクラスの上位者対象に2学期より、数学と英語の授業を7校時に実施。

校外指導の強化として、校外パトロールを始めた。

数学3年生進路希望別制を普通科が4クラスになり、教員不足もありクラス別に変更し、3年生進路選択を2単位から3単位に増やした。

地域に開かれた学校として、福祉を地域に結びつける目的とテレサハウスの有効的な活用をするために「家庭看護講習会」をテレサハウスで、上安久婦人会の協力のもと3回実施した。

ベトナム生2名受け入れ。

フィリピン研修が現地での大地震のために中止となった。

1991 (平成3年)

「明日を考える会」が継続、学校紹介展を綾部と高浜で実施。

学力アップ対策(通称レベルアップ講座)を前年度から継続実施。

1・2年の英語・数学・国語の3教科となった。

福祉を教職員も実践することを目的に、教職員のボランティアグループ「日星テレサ会」が発足。福祉を地域に結びつける役割をした。上安久婦人会の協力のもと、「お年寄りに喜ばれるおやつ」として3回実施。フィリピン研修が、ピナツボ火山爆発のため中止となった。

1992 (平成4年)

水6校時廃止。2学期より学校5日制(月1回)を導入した。

看護科25周年記念式典が行われる。

1・2年生の普通科が3クラスとなる。

学力アップ対策(通称レベルアップ講座)全学年3教科(英語・数学・国語)で実施される。

宗教教育を全職員ですということ、「祈り」の作成を全職員で分担することになった。「福祉」を地域に結びつけることから、「ふれあい料理教室」を余内地区の一人暮らしの高齢者を対象に「テレサ会」を中心として6回実施した。

ベトナム生1名受入。

1993 (平成5年)

学校5日制を月に1回実施(土曜校時の補充措置を元の「水6校時」を活用して行う。普通科3学年とも3クラスとなる。学力アップ対策3教科(英語・数学・国語)で継続実施。
「ふれあい料理教室」6回実施。
ベトナム生1名受入。
シスターロマナ(関ワカ子)理事長退任。古川八郎氏理事長就任。

1994 (平成6年)

学校5日制月1回実施(回復措置は前年度と同じ)。
普通科3学年とも3クラス。
1年生新課程(平成6年改訂)導入(2年次に多様な選択科目の設置)。
福祉授業「新カリキュラム」となり、普通科の単位数2・1・1を1・1・1に変更した。
学習習慣の定着をはかり、家でのテレビ等の誘惑に負けないように夜間に学校で自習をする「夜間学習会」(週2回 19:00~20:30)が始まる。



きめ細かな指導も夜間学習会ならではの少人数での授業をするために、現社(地理)・生物1A・ライティング・OCA・基礎看護・看護情報処理では2分割。数学1では3分割、英語1では4分割、体育は2クラス合併3分割で授業を実施した。

ベトナム生1名受入。
「ふれあい料理教室」4回実施。
制服検討委員会を立ち上げ、新制服の変更に向けて動きだした。



衛生看護専攻科設置に向けて準備室が設置された。

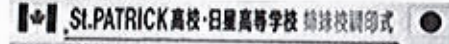
1995 (平成7年)

衛生看護専攻科(2学年:1学級定員40人)開設。



衛生看護専攻科校舎竣工記念式典

学校5日制月1回実施。
制服1年生から変更。
英語の分割授業を2分割に変更。
「国際コース」設置に向けてプロジェクトチームを結成し、検討を開始した。
募集対策の一環として「体験入学」を8月・9月・12月の年3回実施。
カナダセントパトリック高校と姉妹校提携(3月に調印式)



姉妹校提携調印式
「ふれあい料理教室」4回実施。
ベトナム生入学せず。

第3期

1996 (平成8年)

シスターイルダ(梅本玲子)校長退任。田井貞良校長就任。
国際コース開設(16名 内男子4名)男女共学になる。
●OCA専任の先生(カナダ人の先生)
●夏期合宿課外、冬期課外実施
レベルアップ授業中止(夏期課外にて充足させる)
学校5日制月2回の実施(単位を各学年各科目とも1単位減にする)
全国手話スピーチコンテストで全国第2位となる。
夜間学習会が進路部を中心に全職員の当番制となった。
ベトナム生入学せず。
フィリピン生1名来校。

「ふれあい料理教室」2回。
日星教育振興会を日星教育振興協力会に名称変更。
ネパールに文具を送る活動を実施した。
衛生看護専攻科第1期生卒業式挙行(国家試験合格率 92.3% 36/39)

1997 (平成9年)

普通科も男女共学(男子52名・女子127名)とする。
●1年生普通科5クラス(普通コース4クラス・国際コース1クラス)男子の入学により選択科目を追加する。
共学化により校訓を「誠実」「清純」「奉仕」から「自尊」「自知」「自制」に戻す。



男女共学で盛り上がる体育祭

募金活動として三国町災害対策本部に4万円。
国際コース:セントパトリック高校へ短期語学研修[4/1~4/21]
●夏季カナダ研修は参加人数少数のため不成立(フィリピンとカナダを隔年実施とする)。
国際コースから6名(男子1名・女子5名)カナダ長期留学へ[9月~6月]

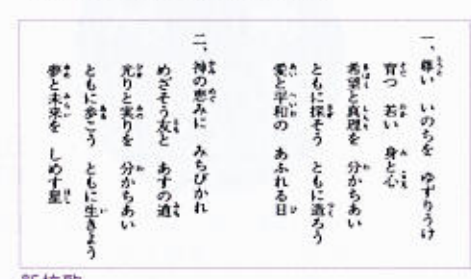


新聞記事から

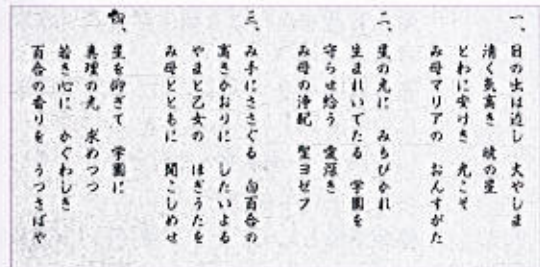
セントパトリック高校より生徒11名・教員2名 短期留学で来校する。
クリスマス聖劇中止(クリスマス週を奉仕活動とミサを中心にする)。
衛生看護専攻科第2期生卒業式(国家試験合格率 97.5% 39/40)
全国手話スピーチコンテスト:全国大会出場。
ふれあい料理教室2回実施。

1998 (平成10年)

新校歌ができる。
今までの校歌は学園歌になる。



新校歌



学園歌

韓国徳園藝術高校 崔陽植校長先生夫妻 来校。
国際コース:セントブレバップ高校へ短期語学研修[4/1~4/18]
フィリピン留学生男子2名、フィリピン夏季研修(生徒10名・教員2名・卒業生1名)
国際コースより4名カナダ長期留学
普通科(1年4クラス、2年5クラス、3年3クラス)教室不足のため家庭科室と美術室を兼用の教室とする。
普通科選択教科一部単位減(食物・被服)とする。
全国手話スピーチコンテスト:全国大会出場。
「ふれあい料理教室」2回実施。
ベルー籍生徒1名入学。
衛生看護専攻科第3期生卒業式(国家試験合格率 100%)
国際コース第1期生卒業

1999 (平成11年)

田井貞良校長退任。室宏子校長就任。
普通科(1年5クラス、2年4クラス、3年5クラス)
国際コース:セントパトリック高校へ短期語学研修[4/5~4/23]
カナダ夏季研修実施(生徒14名・教員2名)
●国際コースより女子7名カナダ長期留学へ。
セントパトリック高校より女子生徒1名長期留学[9/1~6/12 Briar Gorton]
●セントパトリック高校より生徒7名と教員2名来校
カナダ・セントブレバップ高校と姉妹校提携(5月調印)

フィリピン留学生女子2名。



フィリピン留学生の民族ダンス

生徒募集関連で夜間に保護者説明会を舞鶴市内3か所で開催。

普通コースとして男子1期生巣立つ。

衛生看護専攻科第4期生卒業式《国家試験合格率 94.9%》

週5日制完全実施を2002年より実施するためにカリキュラム変更。

「ふれあい料理教室」2回実施。

ペルー生2年在籍。

募金活動として、コソボ難民に156,165円。

2000 (平成12年)

普通科 (1年5クラス、2年5クラス、3年4クラス)

国際コース：カナダ、セントブレバップ高校へ短期語学研修 [3/29～4/16] フィリピンより留学生男子2名。

フィリピン夏季研修旅行が世情不安定のため中止。国際コースより4名 (男子1名・女子3名) カナダ長期留学へ。

12月 カナダ、アーチビショップ・カーニー校と姉妹校提携。

基礎学力講座 (英語・数学) 各週1日 (通称まるいち) 実施。

5月 1日 創立70周年記念行事を挙行
【講演】アグネス・チャン氏



アグネス・チャン氏

募金活動として、有珠山被災地に60,945円。衛生看護専攻科第5期生卒業式《国家試験合格率 78.4%》

生徒募集関連で夜間の保護者説明会を舞鶴2か所で2回実施する。

2001年入学生の国際コースのカリキュラム変更、2002年より週5日制導入決定 (2000年入学生・3年次カリキュラム変更)

「ふれあい料理教室」2回実施。

ペルー生1名 3年在籍。

2001 (平成13年)

普通科 (1年4クラス、2年5クラス、3年5クラス)

国際コース：セントパトリック高校へ短期語学研修 [3/29～4/16]

●フィリピン留学生女子2名 [4/22～5/16]

●カナダより男子1名・女子1名留学生 [6/1～7/19]

カナダ夏季研修、参加人数不足のため中止。

●国際コースより女子6名カナダ長期留学。

アーチビショップ・カーニー高 (カナダ) と姉妹校提携

生徒募集関連で、夜間に保護者説明会 (舞鶴3カ所2回、福井2カ所2回) 実施。

衛生看護科・専攻科を看護科5年課程に2002年度募集から変更決定。

同窓会総会開催。

「ふれあい料理教室」2回実施。

衛生看護専攻科第6期生卒業式《国家試験合格率 87.0%》

2002 (平成14年)

室宏子校長退任。北村司郎校長就任。

普通科 (1年5クラス、2年4クラス、3年5クラス)

看護科5年課程1期生入学 (女子32名・男子3名)

国際コースの短期語学研修がテロの影響で中止。韓国学習旅行もテロの影響で中止となり、長崎学習旅行とする。

●フィリピン留学生女子2名 [4/21～5/15]

●カナダよりの留学生女子1名 [9/1～4/30]

国際コースより8名 (女子7名・男子1名) カナダ長期留学へ

韓国夏季研修旅行実施 [8/21～8/28]



韓国高校生との交流

土曜講座 (英数国理社) 土曜学習を隔週 (第2・第4) 実施。

夏期職員研修会より「新しい日星を考える会」発足。

衛生看護専攻科第7期生卒業式《国家試験合格率 84.6%》

2003 (平成15年)

二学期制実施

看護科5年課程2期生入学 (女子25名・男子3名)

普通コース (1年4クラス、2年3クラス、3年3クラス)

国際コース：1年 (女子5名・男子1名) 2年 (女子6名)、3年 (女子9名・男子1名) アーチビショップ・カーニー校に初めて短期語学研修

●国際コースより女子4名カナダ長期留学へ。カナダから留学生来校。

韓国学習旅行がSARSの影響で北九州方面への学習旅行に変更となる。

フィリピンからの留学生2名

通知表を郵送にする。

東ティモールへ (50,000円)、小倉有加さんへ (25,955円)

クリスマス献金 (25,000円)

衛生看護科 (第35回卒業1177名+21名) 最後の卒業生21名を加えて1198名となった。衛生看護専攻科第8期生卒業式《国家試験合格率 96.3%》

2004 (平成16年)

入学生より新カリキュラムとなる。選択の時間が2年生で8時間、3年生でも8時間とする。(普通コースでヘルパー1級の資格の取れる講座ができた) シラバス生徒へ配布

1年生/普通コース98名、国際コース6名 (女子5名・男子1名)、看護科41名 (女子37名・男子4名) 入学。

セントパトリック高校より12名来校 [2/24～3/4] (女子4名・男子8名・引率教員男性1名・女性1名)、本校より長期留学2名

セントパトリック高校へ短期語学研修 [3/27～3/27] (女子4名・男子1名)

フィリピンからの留学生女子2名 [4/18～5/12]

10月 台風19号が舞鶴市内に甚大な被害を与える (生徒宅11件被災) 舞鶴市へカンパ (35,000円)、スマトラ沖大地震へ (16,005円)

クリスマス献金マザーテレサ愛の宣教師会へ送金 (42,000円)

衛生看護専攻科第9期生卒業式《国家試験合格率 82.6%》

Sクラブ「舞鶴市善行賞」受賞

2005 (平成17年)

「国際コース」を「進学コース」に名称変更する。

看護科5年課程土曜講座の代わりに7校時を増やし単位を増加する。

●各学年32⇒34へ

2006 (平成18年)

1年生/普通コース55名、進学コース10名 (女子9名・男子1名)、看護科39名 (女子37名・男子2名) 入学。

フィリピン留学生女子2名 [4/24～5/18] ジャニス・デラ。

カナダ カーニーハイスクールより15名来校 [2/14～2/26] (女子7名・男子8名・引率教員女性1名・男性1名)

セントパトリック高校へ短期語学研修 [3/16～4/1] (女子8名・男子1名)

学習旅行を2年生で実施することに。[3/8～3/11]この年は4月 (3年) と3月 (2年) に韓国で実施。

学校改革のための職員研修会を実施し、後期より朝掃除・服装指導を徹底

クリスマス募金をサンチの会へ送金 (39,000円)

衛生看護専攻科として最後の卒業式 (10期生) 《国家試験合格率 90.9%》

ヘルパー講座開始 (2級認定9名)

1年生/普通コース58名、進学コース8名 (女子7名・男子1名)、看護科31名 (女子30名・男子1名) 入学

看護科5年課程1年から5年まで揃う。

職員室の机が開校以来の木製からスチール製のものになる。

韓国学習旅行

セントパトリック高校に2名長期留学

セントパトリック高校より15名短期留学生来校

ヘルパー講座 (1級認定9名・2級認定4名)

文化祭 野外特設ステージで開催



文化祭 生徒会によるダンス

2007 (平成19年)

1年生/普通コース77名、進学コース5名 (女子5名)、看護科24名 (女子22名・男子2名) 入学

新制服制定、本館校舎改修、教室にエアコン設置



新制服

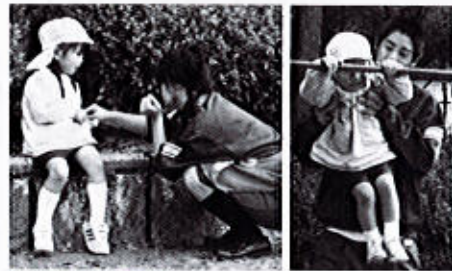
History

本校の沿革

普通科・看護科全学年外部模擬試験実施
朝読書始まる。

8月

コミュニケーション研修会
【講師】鳥取大学 高塚人志 先生
コミュニケーション授業 聖母幼稚園との
交流開始



幼稚園児との交流

第IV期

2008 (平成20年)

北村校長退任 水嶋純作校長就任

1年生/普通コース67名、進学コース8
名(女子8名)、看護科25名(女子24名・
男子1名)計100名入学

新しい日星の特色としてチャレンジプラン
3Cを実践することに。

- コミュニケーション授業 (Communication)
- キャリア教育 (Career)
- 学び合い (Cultivation)

津村俊充南山大教授を招き研修会実施

1年生/聖母幼稚園との交流(1年生 学
期に一回)

2年生/選択コミュニケーション 西乳児
保育所・安寿園(3年で)

8月

日星の未来を考える「フューチャーサーチ」
実施[8月28日~30日]

- 南山大学 文科省教員養成GP事業として
WS開催

- 日星の教職員、市役所、教育委員会、市民、
同窓生、生徒90名(中央公民館大ホール貸
切)宣言文をまとめる。



フューチャーサーチ

「ステラソルー日星の夢と舞鶴の未来をむ
すぶ会」学校支援ボランティア発足

2009 (平成21年)

1年生/普通コース46名、進学コース14
名(女子12名・男子2名)、看護科28名(女
子20名・男子2名)計82名入学

5月 1日 創立80周年記念ミサ 本校講堂 井上神父

7月 硬式野球部が夏の高校野球で創部10年初
勝利、ベスト16

9月 本校卓球部卒業生 上田萌選手 地区の大学
選手権での優勝
デフリンピックの日本代表として活躍[9月
台北]

12月 5日 「創立80周年記念式典」開催

於 舞鶴市民会館大ホール

司教様メッセージ、挨拶、功労者への表彰

【講演】中村文昭氏

「あきらめなければ夢は叶う」

【第2部】同窓会総会(舞
鶴西総合会館ホール)



創立80周年記念行事

80周年募金(教育環境整備・クラブ支援)
415万円

協同学習 広島県立安西高校へ全職員で研
究視察

日本協同学習学
会・東海心理学会
で本校の3Cプラ
ンの研究報告

キャリア教育に関
して 教育研究奨
励賞受賞(京都私
学振興会)

- 「図説 キャリア教
育」にチャレンジ
プラン3C掲載



12月 点字クラブ三浦友理奈さん「Spirit of
Community ボランティア・スピリット賞」
コミュニティ賞受賞

2010 (平成22年)

1年生/普通コース76名(男子49名・女
子27名)進学コース11名(男子2名・女
子9名)看護科23名(男子2名・女子21名)
計110名入学

全校270名(男子110名・女子160名)4年
23名(男子2名・女子21名)5年27名(男
子1名・女子26名) 総計320名

校訓を新しい「ミッションステートメン
ト」として「学校生活のしおり」に明示する。
また、各学年の目標として設定

- 自尊「かけがえのない存在・生命」であ
る自分や他者を大切にすること(1年目標)
- 自知「私たちの使命や可能性を見だし、
これを伸ばす喜び」(2年目標)
- 自制「より高い目標に向かい、他者と共
に自分をつくっていく勇気」(3年目標)

3Cプランを Communication (人と関わ
る力思いやりの心) Career (夢を見つけ実
現する力) Collaboration (協働で学び合
い自分を磨く力) とする。



コミュニケーション授業

民主党政権になり高校無償化がスタート
(公立高校無償、私学生には公立と同額の
118,800円を給付)

看護科の生徒数確保のため、舞鶴市より紹
介いただいた丹後中央病院院長西島氏を訪
問し生徒募集への協力を依頼。院長先生
より地域医療を担う日星看護科を応援しよ
うと丹後地域の看護科生徒対象に「給付型
奨学金」を新設(看護科授業料と国の給付
金118,800円との差額を支給。実質0円
となる。)本校看護科応援の看護師募集の
チラシ3回配布(その結果、受験生58名(昨
年度39名)となり入学者が42名(昨年度
28名)となる。

80周年事業：第一体育館解体、グラウン
ド周辺整備(野球部ブルベン完成)

12月

梅花女子大学との教育連携協定締結(特別
入試、受験料免除等)

舞鶴文化教育財団から音楽部へ楽器補助
(70万円×3年)

2011 (平成23年)

1年生/普通コース56名(男子30名・女
子26名)進学コース11名(男子0名・女
子8名)看護科42名(男子1名・女子41名)
計106名入学

全校279名(男子103名・女子176名)4
年24名、5年23名 計47名 総計326名
目指す学校像「キリストの精神に基づき、
共に生きる力をもった生徒を育て、社会に
貢献する学校」

- 教育目標「人と共に生き、人のために役
立つ、心豊かな人」

1.キリスト教精神…命を大切に、共に

生きる力を育てる。

2. 社会人基礎力…学習や生活をしていく
ために必要な力を育て進路実現
3. 人との関わり…他者と関わる力を育て
自主性を伸ばし自信をもたせる

3月 11日 東日本大震災 福島第1原発事故発生

3月 12日 3年生韓国学習旅行帰国

3月 14日 折りの集い・生徒会より募金活動呼びかけ
被災地支援の始まり

5月 「地球のステージ」開催(桑山医師)

生徒会「折り鶴プロジェクトに参加」東北
に届ける。

12月 「愛と折りのクリスマス」生徒会関係上訪問
(以下毎年冬に訪問)

学習旅行を韓国から沖縄へ(韓国で南北関
係悪化、政情不安定のため国内へ切り替
え、沖縄の文化・歴史・平和を学ぶ学習旅
行に)

2012 (平成24年)

1年生/普通コース72名(男子49名・女
子23名)進学コース8名(女子8名)看護
科37名(男子2名・女子35名)計117名
入学

全校316名(男子126名・女子190名)4
年23名、5年23名 計46名 総計362名
進学コースを難関国公立に合格する力をつ
ける「特進コース」に改編準備

東校舎(講堂含む)耐震及び改修工事(舞
鶴市の補助を受けて)3教室リニューアル、
自習室4、IT室、「サテネット21」導入

3月

3.11の集い「御言葉の祭儀」校門に看板
設置

6月 11日 協同学習研究会 深沢幹生先生

6月 11日 「中高年生き生きフェア」開催 看護科生
(丹後活性化委員会と)

7月 東北ボランティア 釜石・大船渡・南三陸
へ20名参加

マリア寮にエアコン設置、専攻科トイレ改
修(丹後中央病院の寄付)

7月 コミュニケーション研修会「ファシリテ
ーター養成講座」星野欣生先生

12月 被災地訪問 閉上地区(生徒会3名・教員
2名)

生徒会「舞鶴市善行表彰」受ける。(被災地
とつながる活動)

2013 (平成25年)

1年生/普通コース64名(男子32名・女
子32名)進学コース8名(女子8名)看護
科37名(男子1名・女子36名)計109名
入学

全校321名(男子109名・女子212名)4
年25名、5年18名 計43名 総計364名
特進コース前倒しカリキュラムスタート、

History

本校の沿革

途中に自習時間を含む毎日10時間目までの授業(19時まで)、スーパーティーチャー(予備校講師)による土曜講座(国数英)

- 3月 3.11の集い
菊池高紀子 関上わかば幼稚園長
- 7月 コミュニケーション教員研修 高塚人志先生(鳥取大)を招いて
舞鶴市 私立高校特色ある教育環境づくり事業
●普通科リニューアルに向けての環境整備(自習室・サテネット・ST)
- 7月 東北ボランティア 南三陸へ
- 9月 「特進コース・総合コース設置記念セミナー」舞鶴グランドホテル
「活力ある街づくりと教育」市長挨拶・小林京都銀行常務
【講演】川本隆史氏(東京大学教授)
各界市民150名参加
- 9月 学習支援ボランティアによる指導開始
台風18号伊佐津川河口で洪水 3年生92名ボランティア
- 12月 被災地訪問 大川小・関上(生徒会3名・教員2名)

2014 (平成26年)

普通科改編、進学コースを特進コースに、普通コースを総合コースに
新制服に変更



1年生/総合コース76名(男子34名・女子42名) 特進コース8名(男子2名・女子6名) 看護科42名(男子2名・女子40名) 計126名入学
全校339名(男子115名・女子224名) 4年41名、5年23名 計64名 総計403名(近年初の400名台に)

創立85周年記念事業 同窓生等に寄付を募る。玄関・前庭の整備



- 1月 名取市 美田園わかば幼稚園 佐竹園長来校
- 3月 3.11の集い 「女川からの報告」 高橋正樹氏
- 7月 東北被災地ボランティア 南三陸町へ(生徒6名・教師2名)
- 8月 福知山豪雨災害 看護科生 水害復旧ボランティアに参加
- 12月 被災地訪問 名取市 わかば幼稚園(生徒会3名・教師3名)
- 12月 舞鶴市議団 本校特進コース 本校視察 授業・施設・概要説明

2015 (平成27年)

- 1年生/総合コース67名(男子34名・女子33名) 特進コース16名(男子8名・女子8名) 看護科33名(男子1名・女子32名) 計116名入学
全校340名(男子111名・女子229名) 4年43名、5年30名 計73名 総計413名
新カリキュラムによる進路目的別の選択授業開始
新体操服採用
日星カルチャータイム
●4月 鶴屋吉信「和とお菓子」
●5月 京都精華大「マンガは文化」
●9月 あずみ動物病院
●2月 伊庭氏「まいづる肉じゃが」
- 2月 セントパトリック高校より来校
- 3月 特進コース1年生 8名 オタワ・グロウチェスター高校へ短期留学
硬式野球部 亀井君 DeNA ドラフト育成枠1位指名 懸垂幕掲示
- 6月 日星教育振興協会の再発足
- 7月 東北ボランティア 南三陸 農業漁業支援(生徒会5名・教員2名)
- 7月 戦後70年「引揚げの歴史に学ぶ」音楽劇「君よ生きて」全校で鑑賞
- 8月 インターハイレスリング 舞鶴市文化公園体育館を会場に開催
●本校岡安生徒会長 お迎えの挨拶
●チア部：開会式で演技
●本校野球部：会場設営やプラカード持ちに参加
- 10月31日 「看護科創立50周年記念セミナー」(イベント)
【第1部】於 まいづるベイプラザ
来賓祝辞 木村学副市長
①講演会「府北部の医療事情と健康寿命」
京都府立医科大学学長 吉川敏一氏
②「日星看護科の今」看護科生
【第2部】懇親会 於 ホテルマーレたかた
- 11月 コミュニケーション研修会 鳥取大学 協同学習研究会 深沢幹彦先生を招いて【5月、11月】
- 12月 被災地訪問 大川小学校・関上地区

2016 (平成28年)

- 1年生/総合コース94名(男子57名・女子37名) 特進コース9名(男子4名・女子5名) 看護科42名(男子2名・女子40名) 計145名入学
全校380名(男子142名・女子238名) 4年36名、5年38名 計74名 総計454名(男子144名・女子310名)
総合コース1年生で習熟度別の分割授業開始(国・数・英)
- 1月 特進コース1年生 ウズベキスタン抑留者記念館長スルタノフ氏お迎え
於 引揚記念館 孫娘リソラットさんと生徒間交流始まる。
- 1月 「君よ生きて」トークライブに本校合唱部出演(引揚記念館)
- 3月 3.11の集い 「災間を生きる君たちへ」 齋藤幸男先生
- 3月 看護科5年 国家試験4年連続全員合格
- 11月 ICT環境整備
●看護科に電子黒板等設置(丹後中央病院よりの寄付)
●映像授業等開始。
- 11月 協働学習授業研究会 永島孝嗣先生を招いて
- 11月 レスリング吉田沙保里氏講演会(JC主催) 本校体育館に全員参加



吉田選手とともに

2017 (平成29年)

- 1年生/総合コース65名(男子39名・女子26名) 特進コース14名(男子2名・女子12名) 看護科41名(男子1名・女子40名) 計120名入学
全校378名(男子148名・女子230名) 4年43名、5年28名 計71名 総計449名(男子150名・女子229名)
- 2月 セントパトリック高校より15名来校
- 3月 特進コース1年生 カナダ カムループスへ短期留学
- 3月 看護科5年 国家試験5年連続全員合格
- 4月 レスリング部発足
- 5月13日 「看護科創立50周年記念行事」 総合文化会館大ホール

- 表彰、記念講演 wマコト「笑いの力は無限大」看護科生「平和の祈り」全員合唱
- 記念コンサート 歌恋の会「歌の翼に想いをのせてー希望2017」



看護科全員による合唱

- 長期留学復活 特進コース カナダへ2名(1年・半年)・アメリカ1名(1年)
- 東北被災地スタディツアーに参加 生徒会3名・特進コース1年1名・教員2名
- 8月 ウズベキスタンオリンピック事前合宿視察訪問団が日星高校に
- 8月 京都府吹奏楽コンクール初出場 銀賞(小編成の部)
夏ICT教育推進のため全館WiFi 全教室に「アクセスポイント」設置
●全教室に「電子黒板付 短焦点プロジェクター」設置
●教員:iPad 個人用または貸出
- 11月 特進コース1・2年生 ウズベキスタンとネットで交流

2018 (平成30年)

- 1年生/総合コース85名(男子52名・女子33名) 特進コース11名(男子4名・女子7名) 看護科41名(男子3名・女子36名) 計137名入学
全校400名(男子164名・女子236名) 4年33名、5年39名 計72名 総計472名(男子166名・女子306名)
- 2月 3.11の集い「フクシマの今」 濱口一則氏
- 3月 特進コース1年生 カナダ セントパトリック高校へ短期留学
ICT教育推進のため看護科と特進コース1年はiPad 個人で購入
●看護科は電子教科書をインストール。
学習支援センター「ヨハネ・コモンズ」開設 常駐のスタッフ
東北被災地スタディツアー 生徒会他18名参加
- 8月 水嶋校長 ウズベキスタン国立東洋学大学付属高校等訪問
- 10月 ウズベキスタン抑留者記念館長スルタノフ氏一家 日星文化祭に出演 お話・民族舞踊披露
- 12月 1年生/特進コース11名・総合コース3名 カムループスノーカム高校へ短期留学